

SHIRAKOBATO

しらこぼと



1996. 7

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 147

日本野鳥の会 埼玉県支部

探鳥ツアー 中米コスタリカ

海老原 美夫 (浦和市)

昔、探鳥会で、「先が短いだから、年寄り優先だ」と望遠鏡を覗いた楽しい某支部長がいたけれども、私もすでに00才を越えて先が無限ではないと分かってきたので、行けるうちに行きたいところに行っておこうと、海外に足向け始めた。

■チャンスは待ってくれない

今年の4月、仕事をなんとかやりくりして疲れた体で成田空港を出発。ダラス空港での乗り継ぎ待ち時間2時間を挟んで、合計15時間の空の旅でコスタリカの首都サンホセに到着。そのままホテルでバタンキュー。

一夜明けた窓の外から聞こえてくる鳥の声は、当たり前だけど、日本とは違う。

ニンマリとして、早速双眼鏡を向ける。ちょっとカシラダカに似ているあの鳥は図鑑で見覚えがあるぞ。アカエリシトド。自分で識別できた記念すべき第1号。オナガクロムクドリモドキとか、アイイロツバメとか、食堂からいろいろ見えるので、食事しながらも気が気じゃない。撮影したいけど、時間が無い。マイクロバスで移動開始。

途中立ち寄った休憩所で、アカエリシトドはなんとか撮影できたが、「どこにでもいるよ」というこの鳥も、その後は撮影のチャンスはなかった。

ここで教訓その1：「チャンスはその時だけ。写せる時には写せるだけ写せ」。

海外ツアーでは、もう一度撮り直しに戻ることはできない。例えば、ヒゲドリ。谷の向こうの遠い樹上で、ビャーンビャーンと金属的な声を響かせている姿を、大分遠いけど、とにかく写しておいた。「これから行く所ですぐ近くで見えるよ」という声に従わなくて



バスの窓から手を振ってくれた

よかった。この後は全然見えなかった。

逆の例は、カッシュクベリカン。ある海岸で見事なダイビングを繰り返していた。行程の都合で、帰り道に写せるなど先を急いだら、もう駄目だった。帰り道では岩の上で眠っているばかり。

■ガイドにもよるけど

現地の鳥のガイドは、もと大学の教授。学生の物覚えの悪さを怒って大学をやめちゃったというわがままおじさん。

熱心に鳥を探してくれるが、彼が見せたがる鳥は、そこでは珍しい鳥。見にくい地味な鳥中心。その辺にいくらでもいる派手な鳥には目もくれない。わがままおじさんの機嫌をそこねないように話（身ぶり手ぶり）を合わせながら、教訓その2：「鳥のガイドが熱中タイプの場合、その人が見ている方向とは違う方向を見る必要がある」。

私は好きだけどね、こういうタイプ。鳥をよく知っているいいガイドだった。

■鳥は多い、夜は暗い

旅の前半は、パナマとの国境に近いコスタリカの南端、マレンコ。連日30度、体感湿度は100%の所。陸路は難しく、川と海の舟旅で1時間半かけてたどり着く。

1軒ごとのコテージに分かれていて、ベランダの前には林、その先に海が広がり、座っているだけで、コシアカフウキンチョウ、アカハシムナフチュウシャクなど、やたら綺麗な鳥たちが、やたら数多く、やたら近くを飛びかっている。イグアナやオマキザルなどもいるし、素晴らしい所だが、電気は自家発電で、夕方から3時間だけ。しかも暗い。

日本では、暗闇といってもどこからか少しは光があるものだが、本当に真っ暗。

その前に中国に旅した時に、ペンライトを

1本、世話になった人の子供にあげたのを忘れて、持っていったのはペンライトが1本だけ。家人と2人でコテージから食堂に行くにも苦労してしまった。食卓も暗くて、食べ物もよく見えない。

教訓その3：「日本での感覚とは違う。夜の暗さ対策を忘れずに」。

■虫もいる

マレンコから更に海を渡って行ったコルコバード国立公園。

海岸にはツエツエバエがいるから気をつけるようにとあらかじめ注意を受けた。虫除けスプレーは効かないけど、蚊取り線香ならOKというので、しっかりと腰から煙を出していた。お目当てのコンゴウインコを撮影し、もとの海岸に戻ったところで蚊取り線香が燃えつきた。

もうすぐ迎いの舟が来るはずだからと、新しい蚊取り線香に火をつけなかったのがいけなかったのか、裸足のまま芝生状の草の上でハキリアリの行列を撮影したのがいけなかったのか、ふと気がつくとも足もブツブツがいっぱい。

何にやられたのかはわからないが、1ヵ月以上たつ今も残っていて、コルコバードの海岸を楽しく思い出させてくれる。

教訓その4：「日本の蚊取り線香はよく効くけれど、火をつけなければ効かない」。

■共通のマナーとそこでのマナー

旅の後半は、コスタリカ北部の高原地帯、モンテベルデ。

うって変わって爽やかな気候の所で、お目当てはハチドリ類と、英名Resplendent Quetzal、通称ケツアール、日本名カザリキヌバネドリ。

例によってわがままおじさんのガイドは、ハチドリ類なんて見向きもしないけど、ケツアールは自分の研究対象のひとつでもあるし、コスタリカの野鳥の最大の目玉だから、熱心によく見せてくれた。

世界で最も美しい鳥（と世界中の人が言うわけではなくて、この国の人たちが主に言っているらしいけど）であるケツアールを十分に撮影できたのは、大きな収穫だったが、あ



ケツアールは尾を振ってくれた

る保護区で残念な話を聞いた。

ある年ケツアールの巣の近くにアメリカのカメラマンたちが近寄り、ストロボをばんばんたいて撮影したので、その木では、その後営巣しなくなってしまったという。その保護区では、新たな営巣木の近くには人が行けないように立入制限をしていた。

野鳥カメラマンのマナーは、万国共通だ。「日本人カメラマンが……」という話が世界のどこにも残ってほしくないと思う。

正反対の例もある。

マレンコでアカオキリハシというカワセミに似た鳥が営巣していた。巣もカワセミのような巣穴を土の壁に掘っていた。

例の鳥のガイドは、親の動きを見極めると、さっさと巣穴に近づいて、懐中電灯で中を照らし、手招きする。地元の鳥類学者の指示だからと、遠慮なく2羽の雛を見させてもらった。

どちらにしても、要するに、教訓その5は「現地の鳥のガイドの言うことには、素直に従おう」。（教訓2との関係？ 細かいことは気にしない。）

■「バードウォッチング」と「探鳥」

「バードウォッチング」というのは、そこにいる鳥を観察すること。「探鳥」というのは鳥を探すこと。コスタリカのように鳥が多いところでは、まさにバードウォッチングだが、鳥が少ない日本では、まず鳥を探さなければならない。さすが日本の先人は実情をよく示す言葉を考えたものだ。というと、皮肉な冗談のようなのだが、相当程度実感でもある。

日本と異質の自然と野鳥を知る事は、日本の野鳥に対する新しい目を開かせてくれる。

1996年春 シギ・チドリ類調査報告

日本野鳥の会埼玉支部研究部

日時：1996年4月29日

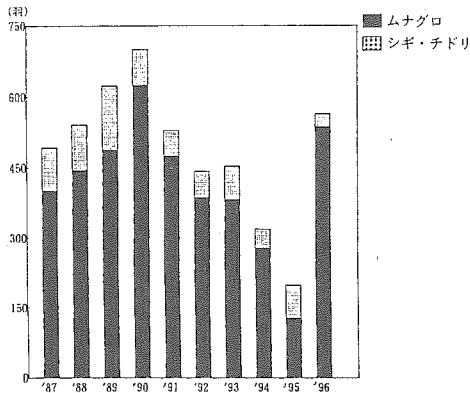
* 9:30~11:30 大久保農耕地

天候：晴れ

4月29日に大久保農耕地でシギ・チドリ類の調査を行いました。この日も強い高気圧におおわれ、夏を思わせる暑い日になりましたが、支部会員18名の協力が得られました。ご苦労さまでした。

観察された鳥類・個体数は6種564羽で、昨年の春と比較すると種数で1種少なくなっ

春のカウント結果のうち大久保農耕地におけるムナグロとそれ以外のシギ・チドリ類の個体数の変化



阪チョン探鳥事情

新井 蔵 (大阪府)

単身赴任最初の休日、早速近所の緑地公園に行ってみた。まだ夏鳥は来ておらず、鳥影は薄かったが、何人もの人が全国共通の言葉「何か出ましたか?」の声を掛けてくれる。探鳥会へのお誘いもいただいて、休日の過ごし方の目処はたった。本当に鳥をやっている良かったと思う。

大阪支部では12の定例探鳥会を開催しており、全部を回するにはまだ2~3ヶ月は掛かりそう。鳥相も違うようで、早くも6種類増えた一方、まだホオジロ、セキレイを1羽も見えない。ケリやオオバンを間近に見て興奮したが、こちらの人には珍しくもないらしくひとり浮き上がっていた。そのかわりカワセミが出て大騒ぎしている皆を横目に、「オレなんか

1993年~1996年春のシギ・チドリ類調査結果

調 査 地 鳥 類	大久保農耕地 浦和市/大宮市			
	'93年	'94年	'95年	'96年
コチドリ	-	-	7	1
ムナグロ	381	277	127	534
キョウジョシギ	-	2	1	-
ハマシギ	24	1	-	9
アオアシシギ	7	3	-	-
タカブシギ	6	13	25	5
チュウシャクシギ	13	12	11	3
タシギ	21	10	26	12
ジシギSP.	2	1	2	-
個 体 数 合 計	454	319	199	564
種 数 合 計	7	8	7	6

いますが、個体数で365羽多くなっています。これは、ムナグロが407羽多くなり6年ぶりに500羽を越えたことが大きな原因です。ムナグロが500羽を越えたのは、数日前から日本列島を高気圧がおおったため、渡ってくる数が増えたのではないかと考えられますが、ムナグロ以外のシギ・チドリ類は少ないので、他にも原因があるのかもしれない。

グラフは春のカウント結果のうち、大久保農耕地におけるムナグロとそれ以外のシギ・チドリ類の個体数をまとめたものです。

(石井 智)

サ、見飽きてるもんネ」と泰然として……ン? やっぱり浮いているか。

大阪の特徴のひとつはビルの谷間の緑地にたくさんの渡り鳥が立ち寄ることだろうか。今年も大阪城でサンコウチョウが、南港ではアカショウビンが出たという。私も連休前後の2日間でオオルリ、キビタキ、ムギマキ、コルリ、クロツグミ、エゾムシクイ等を見ることができた。「ここは戸隠か!」というような豪華メンバーに感激すると同時に、他に緑が無いから集まるのだと思うとこれでいいのかとも考えさせられる。

関西は交通網が発達しているので、クルマが無くてもほとんど不自由しない。地下鉄、電車、バスを駆使して東へ西へと探鳥地を巡りあるく。夜はミナミヘキタへの渡り鳥生活……楽しんでまーす。(5月19日記)

野鳥記録委員会最新情報

日本野鳥の会埼玉県支部 野鳥記録委員会

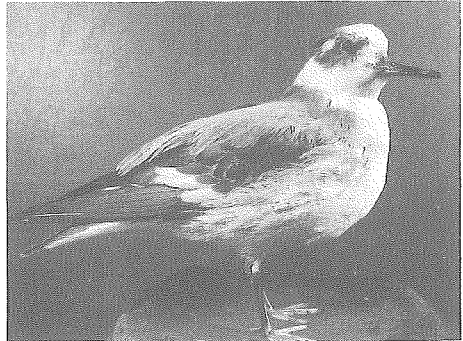
■ハイイロヒレアシシギ *Phalaropus furcarius* の記録

1990年12月1日午後2時ごろ、越谷市南越谷3丁目の田尾吉和君（当時小学5年生）が自宅庭で羽を引きずって歩いているところを保護したが、衰弱が激しく、1～2日後に死亡。越谷市立児童館コスモスに届け、同館で剥製にして展示していたが、1995年からは同市立児童館ヒマワリで展示されていた。

山部直喜幹事が越谷市内の資料を整理するに当たり、ハイイロヒレアシシギは県内でまだ確認記録にされていないので、1996年5月11日、当記録委員会に記録するかどうかの判断を求めた。

記録委員会では、くちばしの太さと形、目の大きさと閉眼線、その他の多くの特徴からハイイロヒレアシシギとして記録すべきであると判断した。

ヒレアシシギ科に属する同種は全長22cm、



春と秋に日本の沖合い海上を通過する旅鳥。アカエリヒレアシシギに比べて海岸に近づく数は少ない。

県内では過去数例の目撃情報はあるが、写真などの確実な資料が残されておらず、これが初の確認記録になる。

県内鳥類リスト295番目。

白馬山麓探鳥会

イキタイトリオ

春の白馬山麓は、私たちを桜と水芭蕉とたくさん野鳥たちで迎えてくれました。

最初に鷹狩山でオオルリの歓迎を受け、続いて姫川源流では雨の落ちてくる中、目にも鮮やかなキビタキが姿を見せてくれました。カタクリやイチリンソウの花が可憐に咲く川沿いを一周した頃、空には虹が!! 大自然の生命を感じる一瞬でした。上部林道では、前になり後ろになり一際鮮やかなオオルリ、キビタキの美しい姿を心ゆくまでウォッチング。前方で「アオバト!」の声に周囲の人達が急に色めき立って、一斉に同じ方向に双眼鏡を向ける。一瞬歓声をあげたい気持ちをぐっとおさえ静かにのぞく。いました! 樹上で緑色の体にぶどう色の羽をもつ美しいアオバトが私たちを待っていたかのように。感激・感激・お願い!! 一声あの物悲しそうな声を聞かせて、なんて欲張ったことはいけませんね。お目にかかれるだけで充分幸せなのだか

ら・・・突然、下の方から「連雀がいました」の知らせ、木の蔓や草に足をとられながら山道を転げ落ちるように一目見んと急ぐ人達、ヤドリギのそばで数羽の連雀が羽を休めていました。美しい色彩と立派な顔だちの連雀たち「待っていてくれてありがとう! 気をつけて北の国へお帰り」と、思わず心の中でつぶやきました。

一泊探鳥会初参加の私たちには感動の2日間でした。本庄からスタートした夢のバスツアーは、プロ級の「鳥ビデオ」鑑賞あり、楽しい語らいあり、おいしい「越乃寒梅」の差し入れあり、露天風呂ありとバラエティーに富んだ企画で素晴らしく、60種もの野鳥たちとの出会いに胸踊らせ、その囀りや姿が木々の芽吹きのように新鮮で心にしみました。白馬山麓で感じた春の色は一生忘れないと思います。この思い出をくださった4人のリーダーと24人の大先輩たち、そして「にほめの一步」のオーナーに心から感謝致します。

カワウ ◇4月21日。桶川市川田谷の江川の端にコロニーがありました。営巣して子育てをしてました（鈴木和博）。
ササゴイ ◇5月12日、川本町の荒川、明戸堰上流で1羽（石川節子）。◇5月14日、北川辺町の渡良瀬遊水地で1羽（樋口信之）。
アマサギ ◇4月26日、坂戸市西坂戸の自宅付近の水を入れたばかりの水田で1羽。今シーズン初認（増尾節子）。
ヨシガモ ◇5月18日、川本町の荒川、明戸堰上流で美しい♂1羽。もう帰ったほうがいいよ（石川節子）。
サシバ ◇5月27日、戸田市道満の釣り堀上空で1羽（高橋達也）。
チョウゲンボウ ◇5月5日、坂戸市の川原で2羽。巣の中にヒナがいるらしく、餌を運んでいた（宮武祥代）。
タマシギ ◇5月5日、蓮田市閩戸の東北新幹線北側の草の残った田んぼで♀1羽。5m位まで近づいても体を低くするだけで、動かずにいた。離れるとあわてて、アシの中に逃げた（玉井正晴）。
コチドリ ◇5月6日、幸手市戸島で1羽（秋間利夫）。
イカルチドリ ◇4月21日、日高市鹿台橋下の堰上で1羽。コサギと共に（本多滋和・幸枝）。
シロチドリ ◇5月14日、北川辺町の渡良瀬遊水地で6羽（樋口信之）。
ムナグロ ◇4月27日、幸手市木立の中川で14羽（秋間利夫）。◇5月6日、吉見町明秋の水田で13羽（石井智）。◇5月6日、幸手市戸島で4羽（秋間利夫）。
タゲリ ◇3月14日、川本町の荒川、明戸堰上流で1羽（石川節子）。
キョウジョシギ ◇5月14日、北川辺町の渡良瀬遊水地で20羽（樋口信之）。
トウネン ◇5月12日、川本町の荒川、明戸堰上流で1羽（石川節子）。
ヒバリシギ ◇5月4日、浦和市秋ヶ瀬の大久保農耕地で1羽（上野倫郎）。

オジロトウネン ◇4月27日、幸手市木立の中川で2羽（秋間利夫）。
ハマシギ ◇5月6日、吉見町明秋の水田で3羽（石井智）。
アオアシシギ ◇5月14日、北川辺町の渡良瀬遊水地で2羽（樋口信之）。
キアシシギ ◇4月29日、川本町の荒川、明戸堰上流で約10羽（石川節子）。◇5月6日、蓮田市黒浜の田んぼでムナグロ群れ中に3羽（玉井正晴）。◇5月6日、吉見町明秋の水田で夏羽1羽（石井智）。◇5月14日、北川辺町の渡良瀬遊水地で1羽（樋口信之）。
チュウシャクシギ ◇5月5日、蓮田市閩戸の東北新幹線北側の田んぼで10羽（玉井正晴）。◇5月6日、幸手市戸島で2羽（秋間利夫）。
セイタカシギ ◇5月14日、北川辺町の渡良瀬遊水地で成鳥1羽（樋口信之）。
アカエリヒレアシシギ ◇5月18日、川本町の荒川、明戸堰上流で2羽。片方の体の色が濃かったので♀だろうか。初めて見て感激（石川節子）。
コアジサシ ◇4月29日、川本町の荒川、明戸堰上流で3羽（石川節子）。◇5月4日、川越市の伊佐沼で2羽。ダイビングしていた（上野倫郎）。◇5月14日、北川辺町の渡良瀬遊水地で約300羽（樋口信之）。
ヒメアマツバメ ◇5月14日、北川辺町の渡良瀬遊水地で約10羽（樋口信之）。
アマツバメ ◇5月12日、川本町の荒川、明戸堰上流で多数乱舞（石川節子）。◇5月14日、北川辺町の渡良瀬遊水地で約30羽（樋口信之）。
ヤマセミ ◇3月20日早朝、日高市巾着田ドレミファ橋上で求愛給餌し、その後♂♀見られたが、約1ヶ月以降、1羽のみが林の上を飛ぶことが多く、昨年場所近くでは営巣未確認（本多滋和・幸枝）。
アオゲラ ◇3月20日、深谷市の仙元山公園で♂♀各2羽（石川節子）。
ショウドウツバメ ◇5月14日、北川辺町の渡良瀬遊水地で数千～数万の大群。湧いてくるみたいでした。空が晴れてきたら、

すーとどこかへ消えてしまった（樋口信之）。

ヒレンジャク ◇5月6日、北川辺町の渡良瀬遊水地で大群に出会えた。群れで林を移動しながら新芽を食べていた（宮武祥代）。

ルリビタキ ◇4月6日、小川町笠山で♀1羽（石川節子）。

アカハラ ◇3月20日、深谷市の仙元山公園で数羽（石川節子）。◇4月21日、坂戸市の高麗川城山橋上流の中洲で1羽。オナガ10数羽やツグミと水浴びをしていた（増尾隆・節子）。◇4月27日、幸手市木立で3羽（秋間利夫）。

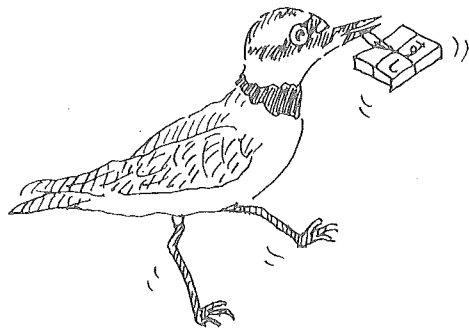
シロハラ ◇5月3日、菖蒲町の神明神社境内で2羽。まだ居たのかとビックリ（内藤義雄）。

オオヨシキリ（初認） ◇4月27日、大宮市大和田の芝川第7調整池のアシ原で2声・3声だけですが、「ジャッジャッ、ギョッ、ギョギョシー」という声を久しぶりに聞きました。姿を探したのですが、見つかりませんでした（浅見徹）。◇4月28日、鴻巣市の荒川冠水橋で鳴き声を聞く（内藤義雄）。

メボソムシクイ ◇4月8日、飯能市下畑、成木川付近で1羽（藤森三治）。

エゾムシクイ ◇5月3日、深谷市の仙元山公園で数羽。高い金属的な声で「ヒーツーキーヒーツーキー」と続けて鳴く（石川節子）。◇5月17日、戸田市道満の釣り堀横の林で1羽。さかんにさえずっていた（高橋達也）。

センダイムシクイ ◇4月28日、蓮田市江ヶ崎の雑木林でさえずりを聞く（玉井正晴）。◇5月10日、大宮市日進1丁目で1羽（森本國夫）。◇5月10日、戸田市道満



（押川 歳子）

の釣り堀横の林で1羽（高橋達也）。◇5月14日、北川辺町の渡良瀬遊水地で声を聞く（樋口信之）。

オオルリ ◇4月28日、日高市巾着田対岸の林の中で♂1羽。透き通った大きな声でさえずり。光の状態が良く、美しい瑠璃色、腹の白色もはっきりと見えた（本田滋和・幸枝）。◇5月2日、大滝村の中津川、信濃沢で1羽。他にセンダイムシクイ、カワガラス、ミソサザイ、シジウカラ、ヒガラ（内田孝男、篠原東彦、青山紘一）。◇5月3日、深谷市の仙元山公園で♂1羽（石川節子）。

サンコウチョウ ◇5月17日、戸田市道満の釣り堀横の林で♂1羽。あの長い尾羽でさかんにフライングキャッチをしていた（高橋達也）。

コムドリ ◇5月5日、川越市笠幡の小畦川付近で♂♀合わせて5羽（上野英士郎・恵）。◇5月6日、北川辺町の渡良瀬遊水地で5羽。林の中を移動していた（宮武祥代）。◇5月14日、北川辺町の渡良瀬遊水地で約5羽（樋口信之）。

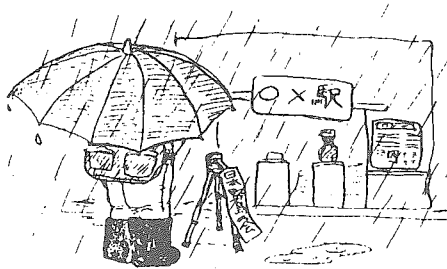
表紙の写真

チゴモズ（モズ科）

ええこれもビデオプリントなんです。最近ビデオプリントが多いですね。先月号の表紙や今月号の2、3ページの写真もそうだと思います。大きなカラー印刷でもなければ、もう十分に使えますよね。

このチゴモズは、6月の初めに神奈川県藤野町で撮影してきたものです。あっち方向も意外と近くて、電車で1時間半くらいでしたよ。7月号が出る頃には、巣立ちしているでしょうね、ええ。 蟹瀬武男（浦和市）

行事あんない



(渡辺 敦)

羽根図鑑の笹川昭雄先生講演会

期日：7月6日(土)

時間：午後1時開場、午後1時30分開演

会場：北本市・埼玉県自然学習センター

詳細は6月号の9頁をご覧ください。多数の方のご来場をお待ちしています。

上尾市・八枝神社探鳥会(夕方)

期日：7月7日(日)

集合：午後6時 上尾市平方八枝神社境内

交通：JR大宮駅西口 東武バス8番乗場より
17時05分発平方行きにて終点下車

解散：19時30分ごろ

担当：中島(康)、桜庭、阿久沢、丹、浅見(健)、立岩

見どころ：あと暫くで梅雨も明けますが、一寸早い夕涼みはいかがですか。毎年この時期・この時間すっかりお馴染みになりましたネ。ご存じ目がクリクリした可愛い鳥ですヨ。

注意：蚊の多いところ、防虫スプレーがあると便利です。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：7月14日(日)

集合：午前9時30分 秩父鉄道大麻生駅前

交通：秩父鉄道熊谷9:11発、または寄居9:03発に乗車

担当：町田、田口、中島(章)、和田、石井(博)、倉崎

見どころ：人気ランキング付けをやったわけ

特別な場合を除いて予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章をした担当者に遠慮なく声をおかけください。私達もあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費は一般100円。会員と中学生以下50円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡など。解散時刻は、特に記載のない場合、正午から午後1時頃。小雨決行です。

自然保護のため、できるだけ電車バスなどをご利用のうえ、指定の集合場所までおいでください。

ではないが、独断と偏見で上位に来ると思われぬサギの仲間達。けれどもこの月の大麻生は目玉がササゴイです。夏を迎える風物として見に来てください。

滑川町・武蔵丘陵森林公園探鳥会

期日：7月21日(日)

集合：午前9時40分 森林公園南入口前

交通：東武東上線森林公園駅より森林公園南口行き9:28発バスに乗り、終点下車

費用：入園料390円、(子供80円)

担当：佐久間、石井(幸)、岡安、長谷部、内藤、藤掛

見どころ：今年もオオムラサキ、トンボの仲間、ヤマユリ等、鳥が少ない時期こそいろんな生き物をウォッチング。昆虫や植物が得意の方大歓迎！ 木陰に入れば涼しいけれど暑さ対策は十分にしてお出かけください。

浦和市・三室地区定例探鳥会

期日：7月21日(日)

集合：午前8時15分 京浜東北線北浦和駅東口(集合後バスで現地へ)。または午前9時 浦和市立郷土博物館前

後援：浦和市立郷土博物館

担当：楠見、福井、渡辺(周)、手塚、笠原、伊藤、若林、倉林、岡部、兼元、嶋田、森

見どころ：夏休みにはいる前のひととき、梅

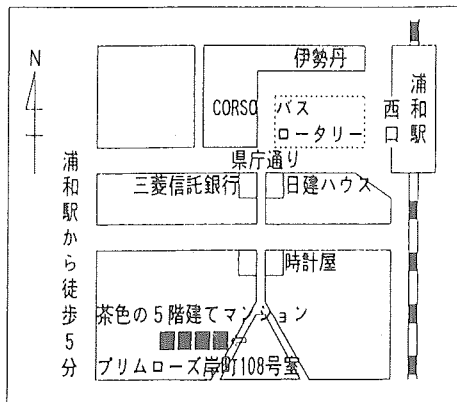
雨明けの大雨の後にオオヨシキリが鳴き、カッコウの声が見沼たんぼをはさんで斜面林から聞こえてくる。青空がまぶしい見沼の夏です。ひと汗かきにおいでください。

『しらこぼと』きつめの会

期日：7月27日（土）午後1時～2時ごろ

会場：支部事務局108号室

案内：今年も暑い時期が巡ってきました。支部報がきちんと届くのは暑さ寒さに関係無く続くボランティアの方々の地道な努力があるからです。羽のない『しらこぼと』は飛んでいけません。今後とも宜しくお手伝いをお願いいたします。事務局にきたことのない人熱烈歓迎！



狭山市・入間川定例探鳥会

期日：7月28日（日）

集合：午前9時 西武新宿線狭山市駅西口

交通：西武新宿線本川越8:43発、または所沢8:45発に乗車

担当：長谷部、石井（幸）、高草木、小野、中村（祐）、山本、藤掛

見どころ：炎天に向かい胸を張りさえずるホオジロ、乱舞するイワツバメ、勢いよく繁茂する雑草。自然と共に生きるものたちのたくましさを感じつつ、歩こう入間川！ 河原は日陰が少ないので暑さ対策はしっかりと。

長野県・湯の丸高原探鳥会

（日帰り・要予約）

期日：7月28日（日）

集合：午前7時 JR高崎線熊谷駅南口ロータリー付近

交通：往復とも27人乗り観光バス利用

費用：6,000円の予定（バス代、保険料など）万一過不足の場合は当日精算。集合地までの往復交通費は各自負担。

定員：24名（先着順・支部会員優先）

申し込み：往復葉書にて住所・氏名・年齢・電話番号を明記して、小池一男

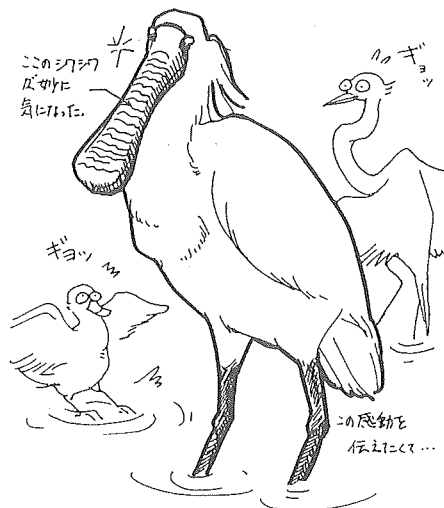
まで。

担当：小池、菱沼、小淵

見どころ：此地は高山植物の宝庫として知られた処。コマクサ・ハクサンフウロ・ミネウスユキソウなどなど。鳥もホシガラス・ウソ・ルリビタキ・ビンズイ・メボソムシクイなど、高山性の種にであえます。花と鳥と豊かな自然が楽しめる欲張りのウオッチング！

クロツラヘラサギを見ました！

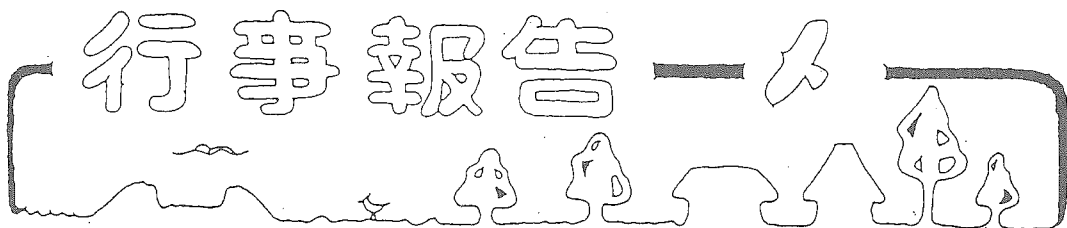
とても大きくてビックリ



4/7 葛西臨海公園 野鳥園にて。

（浦和市・鈴木美由貴）

行事報告



2月18日(日) 滑川町 武蔵丘陵森林公園
雪のため中止。

2月18日(日) 浦和市 三室地区
雪のため中止。

2月24日(土) 『しらこぼと』袋づめの会
ボランティア: 18人

荒木恒夫、磯部 宏、岩上照代、海老原美夫、工藤洋三、倉林宗太郎、佐久間博文、佐藤信治、中村 治、乗田 実、橋口弘視、原田 譲、藤野富代、本間 秀、安原久子、谷津弘子、山本義和、渡辺喜八郎

2月25日(日) 寄居町 玉淀河原
参加: 70人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ マガモ カルガモ コジュケイ イカルチドリ クサシギ イソシギ キジバト ヤマセミ カワセミ コゲラ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス エナガ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (35種) 町の広報紙に案内を掲載してもらったところ、かなりの反響。当日は集合場所が参加者であふれた。市街地から少し離れたところに自然がまだ残っており、野鳥たちが生活している。そうした実感を参加者と共有できたのではないかとと思っている。お目当てのヤマセミは先頭グループの数名が確認できただけだったが、アフターで再度チャレンジしたグループは「ヤマセミがいる!」と喜んだと後日報告あり。(小池一男)

2月25日(日) 坂戸市 高麗川
参加: 28人 天気: 曇

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ マガモ カルガモ コガモ コジュケイ パン イカルチドリ イソシギ キジバト ヤマセミ カワセミ

コゲラ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ツグミ ウグイス エナガ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カシラダカ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (36種) 工事中の多和田橋を渡って、出発。全体にカモの数は少ないが、ま! いいか? 城山橋を渡って、いよいよ目指すヤマセミ君の隠れ家のある場所に近づいた!! まず出迎えてくれたのは、カワセミ君。我々の前を何度も飛び回り、愛嬌を振りまいてくれた。目指すヤマセミ君は? いたぞー。ちょっと遠いが、背中をこちらに向けて、知らん顔。全員で確認。あっ横を向いたぞ!! 冠羽が見えた。胸の茶色が見えないね。きっとメスだね。目的をはたし、皆の笑顔。各リーダーもホッと胸をなでおろす。良かったね。猛禽が出なかったことが心残りだが、よしとするか。(石井幸男)

3月9日(土) 寄居町 鐘撞堂山
参加: 40人 天気: 晴

コサギ トビ オオタカ ハイタカ ノスリ キジバト アカゲラ コゲラ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ シロハラ ツグミ ウグイス エナガ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (27種) 残念なことにカヤクグリやベニマシコはお出かけ中で、会うことができませんでした。しかし、この山の主役のオオタカのほか、ハイタカやノスリも顔を見せてくれて、寂しさを吹き飛ばしてくれました。(田口浩司)

3月9日(土) 久喜市 久喜菖蒲公園昭和池
参加: 24人 天気: 晴

カイツブリ カンムリカイツブリ カワウ マガモ カルガモ コガモ オカヨシガモ ヒドリガモ アメリカヒドリ オナガガモ ハシビロガモ ホシハジロ オオバン キジバト ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ ツグミ カワラヒワ

スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (23種) 例年の1月実施を、スケジュールの関係で3月に変更。ところが池の水を少なくして工事中で、カモの数が最盛期に比べ1/4になっていた。お目当てのトモエガモは見えなかったが、オカヨシガモ数羽とハシビロガモ、ヒドリガモなどを間近で観察できた。 (中島康夫)

3月10日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 28人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ コハクチョウ マガモ カルガモ コガモ ヒドリガモ オナガガモ ホシハジロ トビ オオタカ ノスリ キジ イカルチドリ イソシギ キジバト コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ アカハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (39種) 風が強かったが、頑張って明戸方面へと出発。途中の林で珍しくアカハラが飛び出したがすぐに藪の中に降りてしまった。明戸では、コハクチョウが1羽ぼつんと取り残されてうずくまっており、哀れだった。鉛中毒とも考えられ、散弾の規制の必要を感じた。 (森本國夫)

3月10日(日) 大宮市 染谷見沼自然公園

参加: 29人 天気: 快晴

カイツブリ コサギ マガモ カルガモ コガモ オナガガモ ホシハジロ ノスリ チョウゲンボウ コジュケイ キジ タシギ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ シロハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (36種) 開始の挨拶をしている時、間近な植込から「ホーホケキョ」。皆でビックリ。そしてニッコリ。季節の変化を感じる一瞬。見沼自然公園では、マガモを観察。ここでは初記録。またノスリも珍しく出現した。昨年3月の第1回以来1年を経過したが、これからもう少しでも楽しい探鳥会にして行きたい。 (工藤洋三)

3月10日(日) 川越市 西川越

参加: 31人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ゴイサギ コサギ マガモ カルガモ コガモ キジ イカルチドリ タシギ キジバト カワセミ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ アカハラ ツグミ シジュウカラ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (31種) 「春は名のみの風の寒さよ」というほど風が強く、寒くて、小鳥たちもあまり出てこない。今日はだめかなと思ったが、後半はここで初めてのアカハラが枝に止まっているのが見られ、カワセミもいつもの所でしっかり見られた。

(佐久間博文)

3月17日(日) 長溝町 宝登山

参加: 17人 天気: 曇

トビ コジュケイ キジ キジバト アオゲラ コゲラ ヒヨドリ モズ ツグミ ウグイス キクイタダキ エナガ ヒガラ シジュウカラ ホオジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (23種) 今にも雨が降りそうなリーダー泣かせの天気でした。集合時間になると、10人以上の方が集まり、「お手製のパンフがもったいないよ。やりましょう。」の声で実施しました。お目当ての〇〇は出張中?でした。鳥合わせは「野鳥ビンゴ」を楽しみましたが、リーダーの青山さんからいただいたゴマフアザラシのお人形さんは最年少のさおりちゃんに当たりました。よかったね。

(小池一男)

3月17日(日) 浦和市 三室地区

参加: 20人 天気: 雨

コサギ カルガモ コガモ オナガガモ ホシハジロ コジュケイ コチドリ イソシギ タシギ セグロカモメ キジバト ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ツグミ シジュウカラ ホオジロ アオジ カワラヒワ スズメ オオジュリン ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (26種) 2月が雪で中止になったので心配した探鳥会だったが、こじんまりした楽しい集い。リーダーと会員が半数ずつでゆっくり楽しんだが、雨は激しくなり途中で戻る。オオジュリンが葦の茎に止まり、虫を食べているのがよく見られた。鳥の動作を観察するのもいいものだ。

(楠見邦博)

連絡帳

●新年度の本部常務会

本部の新役員による平成8年度第1回理事
会が5月21日(火)に開かれ、塚本洋三専務理
事が副会長になり、次の様に決まりました。

会長 黒田長久
副会長 川崎惟男
副会長 塚本洋三
常務理事 西村邦男
常務理事 品田 穰
常務理事 市田則孝

●本部の委員に就任

本部の評議員制度を抜本的に検討し直す必
要が生じて、常務会の諮問機関として評議員
問題検討委員会が設置され、当支部の海老原
美夫副支部長が委員に就任しました。

6月11日(火)に市田(委員として)、西村
(オブザーバーとして)両常務理事らも出席し
て1回目の会合が開かれ、今後年度内にある
程度の結論を求めて活動します。

●WING起工式に出席

5月24日(金)、東京都日野市南平で、(財)
日本野鳥の会の鳥と緑の国際センターWING
の起工式が開催され、当支部の松井昭吾支
部長が出席しました。日野市から無償でお借
りしている土地に、来年春の第1期完成に向
けて、いよいよ工事が始まります。

●WINGの建設資金募集中

『野鳥』誌などでもご存じのとおり、「み
んなでつくるWING」を目指して、「1口
3,000円、できれば3口以上のご協力を!」と
呼びかけが続けられています。

〔郵便振替〕00120-9-578222

口座名義 財団法人日本野鳥の会WING

〔銀行振込〕さくら銀行神宮前支店

普通預金 6323017

口座名義 財団法人日本野鳥の会WING

クレジットカード決済の方法もあります。

協力ボランティアも募集しています。お問い

合わせ先は、国際センター担当：久野 (TEL
03-3463-8861、FAX 03-3463-8844) まで。

●第10回コニカパッケージエイド

コニカフィルムの上ぶた1枚につき20円が
鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリに寄付
されるチャリティが、今年も実施されます。

〔参加方法〕コニカフィルムの上ぶた(ロー
タスクーポンの付いていない面)を切り取っ
て、お店などに設置したチャリティー箱に入
れるか、下記までお送りください。

〔送り先〕085-12 北海道阿寒郡鶴居村中雪
裡南 鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ
「パッケージエイド」係

〔受付期間〕1996年11月30日まで

●7月の事務局 土曜と日曜の予定

13日(土) 編集会議(1時から)

20日(土) 校正作業(1時から)

27日(土) 袋づめの会(1時から)

●会員数は

6月3日現在2,732人です。

活動報告

5月18日 6月号校正作業(海老原美夫、工
藤洋三、新堂克浩)。

5月22日 川越市内で開かれた建設省荒川上
流工事事務所主催の荒川についての懇談会
に、松井昭吾支部長出席。

5月26日 役員会議(司会：内藤義雄、支部
総会準備・新年度役員候補・その他)。

編集後記

アオバズクの観察なら、つがいになって間
もない5月中旬の夜10時ころが面白い。♀が
枝の先端にとまり、♂は30cmほど離れてとま
る。その30cmを、♂はプレゼント用の餌をく
わえて、スリスリスリとすり寄って行く。♀
はあくまでも知らんぷり。♂はそおっと首を
伸ばして、プレゼントしようとする。

あの松の木に、今年も来た。(山部直喜)

『しらこぼと』1996年7月号(第147号)

定価100円(会員の購読料は会費に含まれます)

発行人 松井昭吾 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460

〒336 浦和市岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号 郵便振替 00190-3-121130

印刷 関東図書株式会社

(本誌掲載記事の無断転載はかたくお断わりします)